

20030

術者被ばくの低減について

KKR 大手前病院

西尾 一希¹、鯉井 秀之¹、新田 哲也¹、高倉 晴二¹

【背景と目的】近年、Cardiac CT の普及に伴い診断カテーテル検査が減少している。インターベンションにおいては増加傾向にある。インターベンション増化に伴い患者、術者被ばくが問題になってきている。当院において術者一人当たりの被ばく線量が増加しているのが現状である。今回、放射線防護用掛布による術者被ばく低減効果を検討したので報告する。【方法】当院で使用しているプロジェクションにおいて放射線防護用掛布なし、ありの散乱線を計測する。計測は検査時、術者が立つ位置(床上100cm)で行った。【結論】全てのプロジェクションにおいて被ばく低減を認めた。平均70%低減できた。